

訓練生の声

塩釜高等職業訓練校

R. O / K. T

私たち訓練生は、それぞれが各事業所で働きながら、週に1回、訓練校に登校し木造建築を学んでいます。

多くの訓練生は、入校当初、大工として経験が少なく、大工の用語や道具などわからないことがたくさんあるため、1年生のときは、主に、基礎や基本を学びます。

授業も、実技はもちろん学科も行います。製図や木質構造など建築士に必要なことも学べ、より理解できるようになりました。また、ふだんは何気なく使っている大工用語なども、あらためて意味を知ることができるようになり、とても勉強になります。

実技では、現役の大工の先生方に、のみやのこぎりを使って、昔からある継手や道具の使い方など、自分たちの仕事場では得られない知識や技術、技能を学ぶことができますが、今では、その経験と知識が現場で生き、私たちの強みにもなっています。

分からないことがだんだんと分かるようになり、道具の研ぎ方、寸法の取り方、部材の組み方など、最初は難しうまくいかないことでも、少しずつ成功し、手順や作業の進め方がよくなっていき、自信がつく場所だと思っています。

大変なこともあります。週に一度、訓練生の仲間や先輩、先生方との交流が仕事を続けるモチベーションにもなり、それも訓練校に通うメリットといえます。

毎年秋の実習研修旅行では、会津若松市や石巻市、南三陸町を訪問し、歴史ある建物や震災復興の取り組み状況を視察しました。楽しい行事としては、夏休み親子工作教室で小学生との楽しい時間を過ごし、ボウリング大会では、この地域の建築関係の皆さんと交流を深めることができました。

このように、訓練校では、人との関わりや木造建築を学ぶことにより、職業人として基礎的・基本的な技術・技能の習得以外にもたくさんの知識や社会経験を積むことができます。

現在の訓練生は20代ですが、皆、大工の志を持つ仲間同士が楽しく学んでいますので、興味がありましたら気軽に訓練校に見学にお立ち寄りください。私たちの生活を支えている木造建築の大切さ・楽しさを、一緒に学べる仲間が増えて欲しいと願っています。